

## 中東アフリカ等における機械産業の進出可能性に関する調査研究

### (報告書の概要)

我が国のプラント企業は、海水淡水化分野、特に各種膜分野においては大きなシェアを有しており、世界的に見ても高い競争力を備えていることが指摘できる。しかし平成13年の水道法改正を機に、水道事業の民間委託の可能性が拡大したものの、欧米の水企業に比べると営業、経営面に相対的に遅れをとっており、海外での事業展開については、積極的なグローバル化を図ってきた欧米の水企業に対していかにして競争優位性を確保・向上させるかが今後の課題となっている。

世界各地の生活用水、農業用水、工業用水に対する需要は急激に伸びていくと予測されており、特に、中東・北アフリカ、南アジア、ラテンアメリカ等の地域における水市場の拡大が顕著であると見られる。地表水・地下水の取水が限界に近づきつつあることから、拡大する需要に対しては、海水淡水化技術や、排水のリサイクル利用技術の積極的導入によって対応していくことが不可避になると予想される。

但し、水事業の民間参入に対する姿勢や制度については、地域・国によって肯定的であったり、否定的であったりと様々である。また、需要はあっても民間事業者の視点からは事業性が不足するといった地域もある。実際、早くからグローバル展開を積極的に進めてきた英仏の水事業者も、近年に入って海外展開に当たっての市場の取捨選択や集中と選択の姿勢を強めつつある。その意味で、我が国企業の今後の海外事業展開や開発途上国の水問題解決への貢献可能性については、市場の有望性のみならず事業・制度環境をも勘案することが不可欠であると言える。

以上のように整理した競争、需要、市場・事業環境を前提にすると、今後の我が国の中東アフリカ等における水事業の展開可能性については、次のようにまとめることができる。すなわち、民間部門については、競争力の高い膜をはじめとする技術に加え、関連機能の組み合わせを含むシステムのソリューションを志向することで、事業規模・収益性の拡大を検討することが考えられる。一方、公的部門については、それらを顕在化させるための環境整備を図ることで、中東・アフリカをはじめとする切実な水問題を抱える国々での事業展開と課題克服への貢献を図っていくべきである。

### (報告書の主要構成)

- 第1章 我が国水産業の国際競争力とグローバル水企業の動向
- 第2章 世界の水需給
- 第3章 世界各国の水関連制度の現状と課題
- 第4章 我が国が直面する課題と国際貢献の可能性